

誰もが暮らしやすいまちに



佐賀県知事
山口祥義氏

差別なくし 助け合う気持ちを

の気持ちをくんでサポートする思
の心が広がっていくことを願いま

今あるいろいろな不便は、人がつ
つしたものなので、解消できるのもや
ぜひヘルプマークなどを使って、
してほしい」と声を上げてほしい。
とソフトの両面にあるさまざまな
取り除き、人の痛みを分かち合う
をつくりたいですね。

「自分ごと」と受け止め、行動へ

県は「障害のあるなしにかかわら



佐賀県身体障害者団体連合会会長
平川幸雄氏

障害は不便だが 不幸ではない

ず、ともに暮らしやすい佐賀県をつくる
条例」を制定し、県民みんなで支える県を
目指していますね。

知事 たとえば、重い荷物を抱えている
人がいたら「手伝いましょうか」と声を掛
けたり、自分にできる手助けをすることは
とても自然なこと。みんなが佐賀県の一
員として、お互いを尊重し、支え合う意
識を高めてほしいとの思いで制定したの
が、この条例です。

一すべての県民がこの条例を「自分ご
と」として受け止め、行動に移すために
何が必要でしょうか。

知事 ハンセン病患者への差別から学
ぶこと、教育が大切です。のびのびと育っ
た佐賀の子どもたちが、自然と仲間同士
助け合う気持ちを持つことができれば、
これほど心強いことはない。佐賀県の将
来も大きく変わると思います。

三原 私も障害について理解を深める
教育が大事だと思います。日本では障害
がある人は特別支援学校に進み、健常者
とは別の場所で学び成長します。その両
者が社会に出て初めて遭遇するから、戸
惑いや誤解が生じるのです。学校同士の
交流でもいいし、合同の避難訓練でもい
い。それぞれの成長過程で、お互いに触
れ合う機会がもっと増えたらと思います。

原田 今年の「佐賀さいこうフェス」には
私たちが参加し、ライブペイントやワー
クショップを通して大勢の来場者と交流
しました。「障害者福祉」と聞くとハード
ルが高いと感じますが、アートやスポー
ツなどを活用すると広がりやすい。そこ
で刺激を受けたり、「また一緒に何かした
いね!」と気分を高め合ったりするところ
から、人と人の交流が始まるのでは。障
害がある人もない人もこうした価値観を
共有できれば、両者を隔てる障壁も乗
り越えられるでしょう。

平川 私も身障会の代表として、条例
づくりに参加しました。県民の意見が広

反映され、素晴らしい条例ができた
と誇らしく思っています。次の条例では
「障害があるなしにかかわらず」という
区分がなくなり、「県民全員が幸せにな
れるように」という言葉に進化すること
を期待したいですね。私心ですが、「般
若心経」にも障害を超えた平等の教え
を感じます。相手の方の気持ちをく
んで手助けしてほしいと思います。

2024年には佐賀県で国民スポーツ
大会と全国障害者スポーツ大会が開
催されます。その成功のためには、私
たち県民が心を一つにすることが必
要です。お互いに思いやりの気持ち
をもち、物心両面

障害への理解深める 教育大事



佐賀県難病支援ネットワーク理事長
三原睦子氏

失敗することも 大切な学び



障害福祉サービス事業所「P.I.C.F.A.」施設長
原田啓之氏

で支え合えるようになれば、佐賀はも
っと暮らしやすい豊かな県になってい
くでしょう。

知事 県民の皆さんが「心のバリアフ
リー」を実現できた時には、この条例は
必要なくなります。

佐賀県はまだ、その途上にあります。
だからこそ、「障害者月間」などの機会
を積極的に活用して、障害がある人や
困っている人に思いを寄せるきかけ
をつくり、そして、みんなが自然と
手をつなぎ、互いの個性を尊重しな
がら、幸せを実感できる県を目指
していきたいと思います。



ヘルプマーク



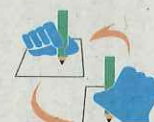
視覚障害マーク



耳マーク



聴覚障害者標識



筆談マーク



手話マーク



身体障害者標識



ハート・プラスマーク

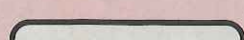
肢体不自由の方

手や脚の切断やマヒなど



発達障害のある方

自閉症、アスペルガー症候



難病のある方

原因不明で治療法が未確立



マークで示せない障害もたくさんあります。障害を持った方が身近にもいることを意識し、みんなが暮らしやすくなるような配慮が日常に